

畑石議員（自民議連）

令和元年 9 月 25 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）未然防止型のひきこもり対策について

本県における家庭教育支援への認識と「家庭教育支援チーム」に対する取組状況について、教育長に伺う。

また、大阪府大東市では小学校 1 年生時に全生徒に対してアウトリーチによる家庭教育支援を実施している例もあり、本県においても先進的な事例を参考に訪問型支援を検討してはどうかと考えるが、訪問型家庭支援に対する所見について、併せて伺う。

（答）

家庭での教育は、基本的な生活習慣、人に対する信頼感・思いやり、善悪の判断、自立心や自制心などを身につける上で大切な役割を担っており、家庭教育への支援は重要であると認識しております。

こうした中、家庭教育支援チームは、保護者への学びの機会の提供や地域での居場所作りなどを通じて、子育て家庭を地域社会全体で見守り支える活動を行っております。

本県におきましては、現在 5 市町で 5 つのチームが設置され、さらに 4 市町において設置に向けた検討や準備が進んでいるところでございます。

また、訪問型支援につきましては、子育てに課題を抱え、地域社会から孤立している家庭に対して、訪問して不安や悩みを聞き、子育てに重要な情報を提供するものであり、有効な取組の一つであると考えております。

しかしながら、本県におきましては、家庭への情報提供に努めている家庭教育支援チームはあるものの、専門的な対応が必要なケースについて、どのように対応するのか不安だ、などの声もあり、直接、家庭の中までアウトリーチしているチームはなく、私の経験から申し上げましても、高いハードルがあると思っております。

不登校からひきこもりになってしまうケースも多く、本県においては、ひきこもりの未然防止として、スクールソーシャルワーカーの配置の拡充や校内適応指導教室の整備、東大ROCKET IN 広島の実施など、不登校等児童生徒への支援にも取り組んでいるところでございます。

教育委員会といたしましては、家庭教育支援に取り組むとともに、不登校等児童生徒への支援にしっかり取り組むことを通じて、ひきこもりの未然防

止に努めてまいります。